

「沼津史談」目次

通番	号数	タイトル	ヨミ	執筆者	発行日
1	1-1	遊撃隊始末記	ユウゲキタイ	大野虎雄	S37.8.22
2	1-2	伊豆・駿河における古代祭祀遺跡	サイシイセキ	小野真一	S37.8.22
3	1-3	沼津藩士小林信近事績	コハヤシノブチカ	山田梅軒(春男)	S37.8.22
4	1-4	六代松雑考	ロクダイ	笹津備洋	S37.8.22
5	1-5	日枝神社縁起	ヒエジンジャ	河辺蒨庵(蒨庵散)	S37.8.22
6	1-6	暖簾とのれん分け	ルン	鈴木憲二	S37.8.22
7	1-7	沼津御用邸	ゴウテイ	成田敏郎	S37.8.22
8	1-8	駒形古墳発掘について	コマガタコフン	近藤辰治	S37.8.22
9	1-9	棧敷文書について	サジキモンジヨ	四方一み	S37.8.22
10	1-10	沼津郷土史研究談話会見学記	シダンカイ	落合恒雄	S37.8.22
11	2-1	沼津城主大久保忠佐とその子孫	ヌマツジョウ オオクホウダスケ	市川良策	S39.3.31
12	2-2	富士の巻狩考	マキガリ	四方一み	S39.3.31
13	2-3	江原素六先生懐旧談	エハラソロク	大野虎雄	S39.3.31
14	2-4	沼津兵学校附属小学校史研究序説	ヘイガッコウ フジクシヨウガッコウ	橋尾四郎	S39.3.31
15	2-5	白隠和尚筆いしぶみ	ハクイン	山田梅軒(春男)	S39.3.31
16	2-6	世古六太夫受難記 一遊撃隊異聞一	セコロクダユウ ユウゲキタイ	大野虎雄	S39.3.31
17	2-7	明治末期の沼津	ヌマツ	鈴木憲二	S39.3.31
18	2-8	桃園貞純親王について	サダスミンノウ	近藤辰治	S39.3.31
19	2-9	「石花の海(せのうみ)」考	セノウミ	落合恒雄	S39.3.31
20	2-10	常照寺と江藤家について	ジョウシヨウジ	風間岳南	S39.3.31
21	3-1	駿河日吉廃寺址発掘調査による総合結果	ヒヨシハイジ	軽部慈恩	S40.3.30
22	3-2	沼津地方考古学的郷土研究の先駆者		市川良策	S40.3.30
23	3-3	山中庄治日記抄 明治初年その1	ヤマナカシヨウジ	大野虎雄	S40.3.30
24	3-4	沼津御役人附	オヤクニンヅケ	大野虎雄	S40.3.30
25	3-5	阿部潜の生涯と行動 一沼津兵学校史研究ノート一		橋尾四郎	S40.3.30
26	3-6	集成舎新築開校の祝辞	シュウセイシャ	辻真澄	S40.3.30
27	3-7	改良委員一岡宮自治規制一	オカミヤ	山田梅軒(春男)	S40.3.30
28	3-8	明治12年コレラ大流行の記録		鈴木憲二	S40.3.30
29	3-9	六花庵官鼠	リツカンアカンソ	近藤辰治	S40.3.30
30	3-10	沼津停車場通治績一斑	ヌマツテイシャバ	河邊清	S40.3.30
31	3-11	付録 沼津郷土資料展示会出品物目録			S40.3.30
32	4-1	妙伝寺古文書の考証	ミョウデンジ	市川良策	S41.3.31
33	4-2	お万の方事蹟考	オマンカタ	山田梅軒(春男)	S41.3.31
34	4-3	伊豆における頼政・菖蒲伝説 一西浦河内禅長寺と菖蒲前一	ヨリマサ アヤマ	辻真澄	S41.3.31
35	4-4	徳川十四代将軍家茂上洛御触書	イエモチ	鈴木憲二	S41.3.31

36	4-5	山中庄治日記抄 明治初年その2	ヤマナカショウジ	大野虎雄	S41.3.31
37	4-6	沼津兵学校と同附属小学校の鹿児島・徳島への影響について	ヘイガッコウ フジクショウガッコウ	橋尾四郎	S41.3.31
38	4-7	再び桃園貞純親王について	サダスミシンノウ	近藤辰治	S41.3.31
39	4-8	近世後期沼津周辺の封建分立史考	ホウケンブンリユウ	村上忠見	S41.3.31
40	4-9	付録 第2回沼津郷土資料展示会出品物目録			S41.3.31
41	5-1	沼津の文学遺跡		市川良策	S42.3.31
42	5-2	智方神社の縁由	チカタジンジャ	近藤辰治	S42.3.31
43	5-3	画人 磯部菊溪	イソベキツケイ	漆畑彌一	S42.3.31
44	5-4	豆州江梨の鈴木氏について 江梨鈴木氏資料とその考察	エナシ	辻真澄	S42.3.31
45	5-5	徳川家紋章考	モンショウ	大野虎雄	S42.3.31
46	5-6	徳川十四代将軍家茂上洛に際し沼津宿外三ヶ村往還御普請出来形帳	イエモチ	鈴木憲二	S42.3.31
47	5-7	北伊豆柑橘栽植の創始	カンキツ	渡辺春太郎	S42.3.31
48	5-8	年号の読み方		山田梅軒(春男)	S42.3.31
49	5-9	「校長」成立試考 酒井麟馨の校長任命書によせて	サカイリンケイ	四方一み	S42.3.31
50	5-10	江戸時代後期駿東郡下の年貢事情		村上忠見	S42.3.31
51	5-11	地名考(メモ帳抄)		河辺蔭庵(蔭庵散)	S42.3.31
52	5-12	山王宮御祭礼行列覚帳・山王御祭礼入用割合帳	サンノウ	近藤光一	S42.3.31
53	5-13	付録 第3回沼津郷土資料展示会出品物目録			S42.3.31
54	6-1	口絵 沼津城内			S43.2.17
55	6-2	駿東赤心隊事蹟 一錦旗沼津に入る一	セキンタイ	山田梅軒(春男)	S43.2.17
56	6-3	百年前の動き		近藤光一	S43.2.17
57	6-4	慶応4年における沼津水野藩の動き一岡宮村名主作右衛門控帳からみた一		辻真澄	S43.2.17
58	6-5	慶応4年太政官金札発行について	ダシヨウカンキンサツ	鈴木憲二	S43.2.17
59	6-6	松長における揺籃期キリスト教顛末		漆畑彌一	S43.2.17
60	6-7	明治期における沼津の金融機関		市川良策	S43.2.17
61	6-8	伊佐新次郎先生のこと	イサシンジロウ	中島照	S43.2.17
62	6-9	「晤学舎」の学事例則と学資金貯蓄方案(資料紹介)	ゴガクシャ	四方一み	S43.2.17
63	6-10	大砲！森山善平氏の生涯	モリヤマゼンペイ	村上忠見	S43.2.17
64	6-11	沼津文庫設立趣意書について		鈴木保	S43.2.17
65	6-12	沼津におけるトラック事業の今昔		近藤辰治	S43.2.17
66	6-13	牧水と沼津千本松原	ホクスイ	田中旭	S43.2.17
67	6-14	付録 第4回沼津郷土資料展示会出品物目録			S43.2.17
68	7-1	沼津城社の推移(口絵写真)		鈴木憲二	S43.3.31
69	7-2	異色人物 角田真平伝	カクタンペイ	漆畑彌一	S43.3.31
70	7-3	「太平年代記」よりみた近世大平村の一側面 一水除け土手と分郷について一	オオヒラネンダイキ	辻真澄	S43.3.31
71	7-4	沼津藩主水野家の菩提寺真珠院	シンジュイン	大野虎雄	S43.3.31
72	7-5	元長窪お長屋土族の息吹	モトナガクホオナガヤ	山田梅軒(春男)	S43.3.31
73	7-6	おんべ竹考		市川良策	S43.3.31
74	7-7	東駿の芭蕉句碑		近藤辰治	S43.3.31
75	7-8	沼津城社の今昔		鈴木憲二	S43.3.31
76	7-9	ある移住土族婦人の思い出話	イジュウシツク	中島照	S43.3.31

77	7-10	近世郷土農村の山論・水論の動向	サンロン・スイロン	村上忠見	S43.3.31
78	7-11	竹冷角田真平の思い出	チクレイ(カクタンペイ)	小池真平	S43.3.31
79	7-12	愛鷹丸遭難事件について	アシカマル	鈴木保	S43.3.31
80	8-1	口絵 一雄斎国輝筆 末広五十三次 沼津(田中旭氏蔵)		鈴木憲二	S44.3.31
81	8-2	沼津における藤沢次謙	フジサワツグヨシ	安西愈	S44.3.31
82	8-3	西尾家と鱗角塾	ニシオ リンカク	市川良策	S44.3.31
83	8-4	山中庄治日記抄 明治初年その3	ヤマナカシヨウジ	大野虎雄	S44.3.31
84	8-5	河鍋暁斎と宇田雨柳	カワナベキョウサイ ウダウリュウ	鈴木憲二	S44.3.31
85	8-6	岳陽少年団長渡辺水哉 一岳陽少年団研究メモより一	ガクヨウシヨウネンダン ワタナベユキチカ	辻真澄	S44.3.31
86	8-7	駿州原宿雲介磯太夫	イソダユウ	漆畑彌一	S44.3.31
87	8-8	宗祇について	ソウキ	近藤辰治	S44.3.31
88	8-9	郷土最古の沼津新聞を通読して		村上忠見	S44.3.31
89	8-10	本因坊丈和出生地の謎	ホンインボウジヨウワ	中嶋照	S44.3.31
90	8-11	栗原控帳		山田梅軒(春男)	S44.3.31
91	8-12	沼津御用邸の電気工事		中嶋照	S44.3.31
92	8-13	沼津市の紋章について	モンシヨウ	河辺蒨庵(蒨庵散)	S44.3.31
93	8-14	異色人物角田真平伝 訂正	カクタンペイ	漆畑彌一	S44.3.31
94	9-1	沼津水野家略史			S45.3.3
95	9-2	沼津水野藩関係資料展図録			S45.3.3
96	9-3	展示資料解説補足(沼津水野藩)			S45.3.3
97	9-4	展示資料出品物及出品者一覧(沼津水野藩)			S45.3.3
98	10-1	口絵 広重画 五十三次 沼津(綾部滋市氏蔵)			S46.3.31
99	10-2	沼津における藤沢次謙(承前)	フジサワツグヨシ	安西愈	S46.3.31
100	10-3	山中庄治日記抄 明治初年その4	ヤマナカシヨウジ	大野虎雄	S46.3.31
101	10-4	近世郷土の酒造株移動の一例	シュゾウカブ	村上忠見	S46.3.31
102	10-5	安政期の原宿の生活		渡辺八郎	S46.3.31
103	10-6	駿州原宿雲介磯太夫追記	イソダユウ	漆畑彌一	S46.3.31
104	10-7	終戦当時における沼津地方(静岡県東部)の陸軍防衛態勢 と独立混成第一百十七旅団長 平桜政吉氏手記		鈴木憲二	S46.3.31
105	10-8	田村竹琴翁	タムラチツキン	河辺蒨庵(蒨庵散)	S46.3.31
106	10-9	消えゆく風習(北小林・岡一色)		近藤辰治	S46.3.31
107	10-10	根方雑記	ネガタ	風間岳南	S46.3.31
108	10-11	沼津城と土屋氏		中居貞一	S46.3.31
109	10-12	学習院水泳場と電灯		中嶋照	S46.3.31
110	10-13	昭和44年度総会記念講演「歴史小説の興趣」		榛葉英治	S46.3.31
111	10-14	沼津市の紋章について追補	モンシヨウ	河辺蒨庵(蒨庵散)	S46.3.31
112	10-15	付録 第6回沼津郷土資料展示会出品物目録			S46.3.31
113	11-1	展示資料展図録(満州事変より支那事変)			S47.3.31
114	11-2	展示資料展図録(銃後の生活と防空演習)			S47.3.31
115	11-3	展示資料展図録(海軍工作学校)			S47.3.31

116	11-4	展示資料展図録(大戦末期の生活昭和20年)			S47.3.31
117	11-5	展示資料展図録(沼津空襲)			S47.3.31
118	11-6	展示資料展図録(終戦及び戦後の生活)			S47.3.31
119	11-7	展示資料展図録(展示会会場風景)			S47.3.31
120	11-8	展示会資料解説補足(終戦前後と沼津空襲)			S47.3.31
121	11-9	展示資料出品物及び出品者			S47.3.31
122	11-10	空襲及び戦中戦後の体験記			S47.3.31
123	11-11	香代子日記抄(戦時)		植松香代子	S47.3.31
124	11-12	梅軒日記抄(終戦前後)	バイケン	山田梅軒(春男)	S47.3.31
125	11-13	空襲体験記		鈴木憲二	S47.3.31
126	11-14	沼津焼尽前後の回想		市川良策	S47.3.31
127	11-15	戦後の落し子「囚人堀」	シュウジンホリ	大川その女	S47.3.31
128	11-16	資料展を見て		M.U.生(21歳事務)	S47.3.31
129	11-17	私の戦争体験記		井草通之	S47.3.31
130	11-18	太平洋戦争中の沼津に於ける海軍関係者の座談会			S47.3.31
131	12-1	弔辞一故大野虎雄前会長に対する一		山田梅軒(春男)	S47.11.25
132	12-2	温故知新と兄虎雄のことなど		大野寛孝	S47.11.25
133	12-3	大野君の思い出		一杉藤平	S47.11.25
134	12-4	故大野虎雄民協会長の一周忌にあたって		大島佐重	S47.11.25
135	12-5	大野先生を憶う		山本常子	S47.11.25
136	12-6	大野虎雄先生追悼		成田敏郎	S47.11.25
137	12-7	大野さんの横顔		山田梅軒(春男)	S47.11.25
138	12-8	大野会長の思い出		鈴木憲二	S47.11.25
139	12-9	市誌編纂のころの大野さんを偲んで		辻真澄	S47.11.25
140	12-10	天保時代の沼津(上)	テンボウ	漆畑彌一	S47.11.25
141	12-11	沼津藩水野領と伊豆国(その1)		相原隆三	S47.11.25
142	12-12	沼津の古城社	ゴジョウシ	静岡古城研究会	S47.11.25
143	12-13	伊豆長浜城		近藤辰治	S47.11.25
144	12-14	江戸沼津宿間大番頭宿泊日割		村上忠見	S47.11.25
145	12-15	「駿東郡東間門村明細帳」について	ヒガシマカトムラ	市川良策	S47.11.25
146	12-16	安政期の原宿の生活(本誌第10号所載の続き)		渡辺八郎	S47.11.25
147	12-17	ふるさとの伝承		関野新吾	S47.11.25
148	12-18	終戦当時における沼津地方(静岡県東部)の陸軍防衛態勢について		鈴木憲二	S47.11.25
149	12-19	関東多摩川沿いに史跡探訪の記(紀行文)		池谷忠寛	S47.11.25
150	12-20	桶狭間古戦場探訪(紀行文)		山本米三郎	S47.11.25
151	12-21	生と死(随筆)		井草通之	S47.11.25
152	13-1	口絵 豊国画 東海道五十三次の内 原 呉服屋重兵衛		鈴木憲二	S48.3.31
153	13-2	三枚橋城	サンマイバシジョウ	鈴木憲二・市川良	S48.3.31
154	13-3	沼津藩水野領と伊豆国(その2)		相原隆三	S48.3.31
155	13-4	天保時代の沼津(中)	テンボウ	漆畑彌一	S48.3.31
156	13-5	原宿の宿勢について		渡辺八郎	S48.3.31
157	13-6	久連区有文書の中から	クスラ	関野新吾	S48.3.31

158	13-7	菰山大道寺家について	ダイドウジ	鈴木保	S48.3.31
159	13-8	豆相鉄道唱歌について	ズソウテツドウ	山田梅軒(春男)	S48.3.31
160	13-9	狩野川鯉網大仲の回想	カノガワ	村上忠見	S48.3.31
161	13-10	市制50周年を迎えて		成田敏郎	S48.3.31
162	13-11	近江路吟行		米山正雄	S48.3.31
163	13-12	近江路旅行におともして(紀行文)		酒井やそ	S48.3.31
164	14-1	沼津市の歩み写真展			S49.2.10
165	14-2	写真提供者名簿(沼津市の歩み50年)			S49.2.10
166	14-3	沼津市年表			S49.2.10
167	15-1	口絵 広重画 東海道五拾三次 原(堤志可衛氏提供)			S49.3.30
168	15-2	天保時代の沼津(下)	テンポウ	漆畑彌一	S49.3.30
169	15-3	沼津藩の海防と砲術訓練		石井岩夫	S49.3.30
170	15-4	原宿の伝馬機構(1)	テンマ	渡辺八郎	S49.3.30
171	15-5	沼津病院・駿東病院についての新知見	ストウビョウイン	土屋重朗	S49.3.30
172	15-6	興隆寺の太子堂	コウリュウジ	関野新吾	S49.3.30
173	15-7	沼津の地名		芹沢武男	S49.3.30
174	15-8	沼津の苗字		河辺蒨庵(蒨庵散)	S49.3.30
175	15-9	金鷄館	キンシカン	田口健三	S49.3.30
176	15-10	「蛭ヶ小島」古碑の読み	ヒルガコジマ	山田梅軒(春男)	S49.3.30
177	15-11	八木昌平先生年譜	ヤキショウヘイ	鈴木保	S49.3.30
178	15-12	甲州武田の跡を探ねて		近藤床湖	S49.3.30
179	15-13	奈良紀行(紀行文)		笹原俊雄	S49.3.30
180	16-1	口絵 大正10年頃の上土通り			S50.1.31
181	16-2	沼津藩主水野忠敬の和歌	ミスノタダリ	漆畑彌一	S50.1.31
182	16-3	原宿の伝馬機構(2)	テンマ	渡辺八郎	S50.1.31
183	16-4	御仕置五人組帳(勝呂家蔵)		宮治勲	S50.1.31
184	16-5	地名考		河辺蒨庵(蒨庵散)	S50.1.31
185	16-6	手島精一先生略伝	テジマセイイチ	鈴川憲二	S50.1.31
186	16-7	「ジューブシヨ」考		近藤辰治	S50.1.31
187	16-8	駿東病院手術台帳(其の1)	ストウビョウイン	芹沢武男	S50.1.31
188	16-9	我入道青年会の会則	ガニユウドウ	笹原俊雄	S50.1.31
189	16-10	たけの懐旧談義とその史考		村上忠見	S50.1.31
190	16-11	ふるさとの伝承(2)		関野新吾	S50.1.31
191	17-1	画便り(佐々木古桜)	ササキコウ		S50.3.30
192	17-2	画日記(佐々木古桜)	ササキコウ		S50.3.30
193	17-3	付録 沼津空襲年表			S50.3.30
194	17-4	付録 伊勢参宮画日記			S50.3.30
195	18-1	口絵 梅原竜三郎画 夢二題			S50.11.30
196	18-2	梅原竜三郎画伯の夢二題について	ウメハバラユウザブロウ	浅田正博	S50.11.30
197	18-3	沼津爆撃跡三題		浅田正博	S50.11.30
198	18-4	「学徒通年動員日記」抄		佐藤一正	S50.11.30
199	18-5	佐藤一正君の動員日記を読んで		小林寛	S50.11.30

200	18-6	空襲そして今		柳瀬晴海	S50.11.30
201	18-7	猛火を逃れて(口述)		前山孝吉	S50.11.30
202	18-8	沼津海軍工廠建設計画案について	カイゲンコウショウ	鈴木憲二	S50.11.30
203	18-9	仁科田子浦中国人俘虜殉難者遺骨送還の記録	フリオ	村上忠見	S50.11.30
204	19-1	御成橋のうつりかわり	オナリバシ	鈴木憲二	S51.3.31
205	19-2	成田顧問を偲ぶ		山田梅軒(春男)	S51.3.31
206	19-3	沼津藩主水野忠敬の手紙	ミスノタダリ	漆畑彌一	S51.3.31
207	19-4	史料紹介 高島流砲術「起請文之事」について	タカシマリユウホウジュツ	石井岩夫	S51.3.31
208	19-5	千本松原砂洲の開発一特に桃里集落について一		渡辺八郎	S51.3.31
209	19-6	俳人七沢と久連円了庵	クスラ	関野新吾	S51.3.31
210	19-7	久連区有文書の中から(2)一波除一件の事一	クスラ	関野新吾	S51.3.31
211	19-8	明治37、8年日露戦争 記念日誌		村上忠見	S51.3.31
212	19-9	退翁先生碑文について	タイオウ	宮治勲	S51.3.31
213	19-10	沼津垣根		市川良策	S51.3.31
214	19-11	狩野川懐古	カノガワ	田口健三	S51.3.31
215	19-12	月見の会と薩摩琵琶(随筆)		井草通之	S51.3.31
216	19-13	上毛方面史跡見学旅行一旅の句		尾崎青支	S51.3.31
217	19-14	北関東の初夏(俳句)		渡辺白水	S51.3.31
218	20-1	明治の城内大手町写真シリーズ		鈴木憲二	S52.1
219	20-2	明治沼津行賞録		漆畑彌一	S52.1
220	20-3	原宿の休泊施設		渡辺八郎	S52.1
221	20-4	東静地方震災史録集		村上忠見	S52.1
222	20-5	安政大地震とその所産に関して		関野新吾	S52.1
223	20-6	沼津領の榜示杭	ボウジグイ	市川良策	S52.1
224	20-7	大朝神社の棟札	オオアサジンジヤ	笹原俊雄	S52.1
225	20-8	三津を尋ねて(随筆)	ミト	近藤辰治	S52.1
226	20-9	明治から大正にかけての沼津一若き日の思い出一		持田尚一	S52.1
227	21-1	口絵 沼津城図 現在の市街との対比図		鈴木憲二	S52.6
228	21-2	口絵 沼津城内図		鈴木憲二	S52.6
229	21-3	口絵 沼津城本丸図		鈴木憲二	S52.6
230	21-4	口絵 東海道五十三次の内 沼津 広重画		鈴木憲二	S52.6
231	21-5	口絵 末廣五十三次 沼津 一雄斎国輝画		鈴木憲二	S52.6
232	21-6	口絵 三枚橋古城図		鈴木憲二	S52.6
233	21-7	口絵 三枚橋古城図		鈴木憲二	S52.6
234	21-8	口絵 三枚橋古城図		鈴木憲二	S52.6
235	21-9	口絵 三枚橋古城図		鈴木憲二	S52.6
236	21-10	口絵 三枚橋城(旧沼津城)石垣		鈴木憲二	S52.6
237	21-11	口絵 狩野川畔に残る当時の石垣		鈴木憲二	S52.6
238	21-12	口絵 狩野川畔に残る当時の石垣		鈴木憲二	S52.6
239	21-13	明治の沼津案内		漆畑彌一	S52.6
240	21-14	三枚橋城祉考	サンマイバシジヨウ	鈴木憲二	S52.6
241	21-15	原浦漁業について		渡辺八郎	S52.6

242	21-16	請西藩主林忠崇事蹟関係二題 1. 史蹟真武根陣屋遺祉建碑記録(抜粋) 2. 遊撃隊靈山寺脱出の考察	ジョウサイハンシュ	林勲	S52.6
243	21-17	沼津男子尋常高等小学校		河辺蒨庵(蒨庵散)	S52.6
244	21-18	沼津水野藩と西浦(1)		関野新吾	S52.6
245	21-19	自動車の思い出あれこれ		市川良策	S52.6
246	21-20	川上五郎翁を囲む座談会「明治・大正時代の沼津と画壇こぼれ話」			S52.6
247	22-1	グラフ 福寿院表門		鈴木憲二	S52.11.30
248	22-2	グラフ 福寿院の扁額		鈴木憲二	S52.11.30
249	22-3	グラフ 水野忠成画像	ミズノタダアキラ	鈴木憲二	S52.11.30
250	22-4	グラフ 福寿院殿画像		鈴木憲二	S52.11.30
251	22-5	グラフ 福寿院殿供養塔		鈴木憲二	S52.11.30
252	22-6	グラフ 玄向寺の水野家墓地		鈴木憲二	S52.11.30
253	22-7	明治沼津商工名鑑		漆畑彌一	S52.11.30
254	22-8	原宿の租税について		渡辺八郎	S52.11.30
255	22-9	沼津水野藩と西浦(2)		関野新吾	S52.11.30
256	22-10	伊豆十二歌仙より		山本三朗	S52.11.30
257	22-11	嘉永年代における沼津宿の一断面	カエイ	市川良策	S52.11.30
258	22-12	白隠墨蹟考(その1)	ハクイン	山田梅軒(春男)	S52.11.30
259	22-13	三津を尋ねて(2)	ミト	近藤辰治	S52.11.30
260	22-14	旧沼津中学校の焼失とその意義		四方一み	S52.11.30
261	22-15	沼津牛臥大山邸雑考	ウシバセ	池谷ゆう軒	S52.11.30
262	22-16	千本浜首塚の事	ケビヅカ	河辺蒨庵(蒨庵散)	S52.11.30
263	22-17	お江戸日本橋			S52.11.30
264	22-18	古文書「地方心得草」	コモンジョ「シカタコロエグサ」	宮治勲	S52.11.30
265	23-1	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 赤野観音堂	ナカノセイコウ アケノカンノドウ	鈴木憲二	S53.6.20
266	23-2	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 大中寺鐘楼門 中沢田	ダイチュウジ ショウロウモン	鈴木憲二	S53.6.20
267	23-3	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 白隠禅師筆達磨 原松蔭寺蔵	ハクインゼンジ ショウインジ	鈴木憲二	S53.6.20
268	23-4	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 市指定文化財 地蔵菩薩 光明院(本郷町)	コウミョウイン	鈴木憲二	S53.6.20
269	23-5	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 県指定文化財 霊山寺梵鐘 東本郷町 霊山寺	リョウゼンジ	鈴木憲二	S53.6.20
270	23-6	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 円筒埴輪 東沢田長塚古墳出土 市歴史民俗資料館蔵		鈴木憲二	S53.6.20
271	23-7	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 市指定文化財 盧舎那仏 市道 慈光院	ルシャナブツ	鈴木憲二	S53.6.20
272	23-8	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 内膳堀 東本郷町にて	ナイゼンボリ	鈴木憲二	S53.6.20
273	23-9	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 沼津御用邸記念公園 島郷	トウゴウ	鈴木憲二	S53.6.20
274	23-10	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 藍壺の滝 北小林		鈴木憲二	S53.6.20
275	23-11	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 松陰(蔭)寺山門とすり鉢の松(原)	ショウインジ	鈴木憲二	S53.6.20
276	23-12	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 大瀬崎と富士山 西浦江梨	オセザキ ニシウラエナシ	鈴木憲二	S53.6.20
277	23-13	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 舟仙作 狐面(西間門 金剛寺)	シュウセン ニシマカド	鈴木憲二	S53.6.20
278	23-14	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 県指定文化財 子持勾玉 内浦長浜 大川敏夫	コモチマカタマ	鈴木憲二	S53.6.20
279	23-15	中野清光 沼津史跡文化財木版画シリーズ 重要文化財 金銅聖観音像懸仏 窪田久保氏	ショウカンゾウ カケボトケ	鈴木憲二	S53.6.20
280	23-16	五十三次下りの唄と都路往来		漆畑彌一	S53.6.20
281	23-17	原宿の成長過程		渡辺八郎	S53.6.20
282	23-18	系図・その成立の謎と郷土史との関連		笹原俊雄	S53.6.20

283	23-19	沼津方言集		穴倉仙治	S53.6.20
284	23-20	追儼(ついな)	ツイナ	西島恭三	S53.6.20
285	23-21	白隠墨蹟考(その2)	ホクセキ	山田梅軒(春男)	S53.6.20
286	23-22	沼津水野藩と西浦(3)		関野新吾	S53.6.20
287	23-23	林忠崇遊撃隊の蜂起一甲駿豆州域での策謀・対応諸藩の動勢と民情一	ハヤシタダ'効 ユウゲキタイ	村上忠見	S53.6.20
288	23-24	「都路」(東海道往来)について一故西山秀さんの問いに答え徳を慕う一		池谷忠寛	S53.6.20
289	24-1	牧水展によせて	ホクスイ	林茂樹	S53.11
290	24-2	香貫山 若山牧水 =森の小径より=	カヌキヤマ		S53.11
291	24-3	牧水の酒の飲みかた		若山旅人	S53.11
292	24-4	随想		井出敏彦	S53.11
293	24-5	暮坂峠の牧水祭		川口和子	S53.11
294	24-6	牧水松蔭の棲家のあたり		市川良策	S53.11
295	24-7	牧水作品に現れた沼津近辺		芹沢武男	S53.11
296	24-8	小枝子		寺田桂子	S53.11
297	24-9	「若山牧水展」に		岡本淳子	S53.11
298	24-10	酒仙牧水		山田梅軒(春男)	S53.11
299	24-11	牧水の手紙		近藤辰治	S53.11
300	24-12	牧水の手紙		大林栄一	S53.11
301	24-13	若山牧水展始末記		上田治史	S53.11
302	25-1	沼津いとむかし(写真シリーズ) 千本公園入口		鈴川憲二	S54.4
303	25-2	沼津いとむかし(写真シリーズ) 千本長谷寺(お観音さん)		鈴川憲二	S54.4
304	25-3	沼津いとむかし(写真シリーズ) 千本公園”あづまや”附近		鈴川憲二	S54.4
305	25-4	沼津いとむかし(写真シリーズ) 千本公園噴水池		鈴川憲二	S54.4
306	25-5	沼津いとむかし(写真シリーズ) 千本浜海岸(1)		鈴川憲二	S54.4
307	25-6	沼津いとむかし(写真シリーズ) 昭憲皇太后御休所社		鈴川憲二	S54.4
308	25-7	沼津いとむかし(写真シリーズ) 千本浜海岸(2)		鈴川憲二	S54.4
309	25-8	沼津いとむかし(写真シリーズ) 仲町河岸		鈴川憲二	S54.4
310	25-9	沼津いとむかし(写真シリーズ) 湊橋(御成橋)と上土河岸		鈴川憲二	S54.4
311	25-10	沼津いとむかし(写真シリーズ) 御成橋		鈴川憲二	S54.4
312	25-11	沼津いとむかし(写真シリーズ) 魚町河岸		鈴川憲二	S54.4
313	25-12	沼津いとむかし(写真シリーズ) 河口附近の子持川		鈴川憲二	S54.4
314	25-13	沼津いとむかし(写真シリーズ) 沼津駅		鈴川憲二	S54.4
315	25-14	沼津いとむかし(写真シリーズ) 駅前通り大手町(十字路附近)		鈴川憲二	S54.4
316	25-15	沼津いとむかし(写真シリーズ) 上土通り		鈴川憲二	S54.4
317	25-16	沼津いとむかし(写真シリーズ) 通り横町		鈴川憲二	S54.4
318	25-17	沼津いとむかし(写真シリーズ) 本通り(アーケード街)		鈴川憲二	S54.4
319	25-18	沼津いとむかし(写真シリーズ) 臨川閣大松旅館		鈴川憲二	S54.4
320	25-19	沼津いとむかし(写真シリーズ) 永代橋より富士を望む		鈴川憲二	S54.4
321	25-20	沼津いとむかし(写真シリーズ) 黒瀬橋の富士		鈴川憲二	S54.4
322	25-21	沼津いとむかし(写真シリーズ) 黒瀬橋と松並木		鈴川憲二	S54.4
323	25-22	沼津いとむかし(写真シリーズ) 山王さん(日枝神社)		鈴川憲二	S54.4
324	25-23	沼津いとむかし(写真シリーズ) 獅子浜城址よりの富士の眺望		鈴川憲二	S54.4

325	25-24	沼津いとむかし(写真シリーズ) 布島附近(静浦)		鈴木憲二	S54.4
326	25-25	沼津いとむかし(写真シリーズ) 大久保鼻よりの富士		鈴木憲二	S54.4
327	25-26	沼津いとむかし(写真シリーズ) 布島		鈴木憲二	S54.4
328	25-27	沼津いとむかし(写真シリーズ) 瓜島		鈴木憲二	S54.4
329	25-28	沼津いとむかし(写真シリーズ) 静浦街道より富士を望む		鈴木憲二	S54.4
330	25-29	沼津いとむかし(写真シリーズ) 口野の生巢		鈴木憲二	S54.4
331	25-30	沼津いとむかし(写真シリーズ) 不動岩から見た富士		鈴木憲二	S54.4
332	25-31	沼津いとむかし(写真シリーズ) 狩野川の富士(我入道より)		鈴木憲二	S54.4
333	25-32	沼津いとむかし(写真シリーズ) 牛臥山より富士を望む		鈴木憲二	S54.4
334	25-33	山崎剣二氏の最後		漆畑彌一	S54.4
335	25-34	西伊豆昔話		秋山公道	S54.4
336	25-35	沼津の伝説展望 中将岩物語 その成立の謎と背景 考察 平家物語の世界	チュウジョウイワ	笹原俊雄	S54.4
337	25-36	公家衆の通行と原宿伝馬	クゲシュウ	渡辺八郎	S54.4
338	25-37	白隠墨蹟考(その3)	ホクセキ	山田梅軒(春男)	S54.4
339	25-38	幕末の歌人菊池袖子について	キクチソデコ	日吉宗雄	S54.4
340	25-39	長井崎今昔	ナガイサキ	関野新吾	S54.4
341	25-40	地名考「町の名づくし」		河辺蒔庵(蒔庵散)	S54.4
342	25-41	「沼津海軍工廠」書留(1) 一衆人堀・弾丸列車その他一	カイゲンコウショウ	池谷ゆう軒	S54.4
343	25-42	中空乃日記について(その1)		宮治勲	S54.4
344	26-1	狩野川の五十年(写真シリーズ) 狩野川川口(1)		鈴木憲二	S54.11
345	26-2	狩野川の五十年(写真シリーズ) 狩野川川口(2)		鈴木憲二	S54.11
346	26-3	狩野川の五十年(写真シリーズ) 狩野川川口(3)		鈴木憲二	S54.11
347	26-4	狩野川の五十年(写真シリーズ) 子持川の河口		鈴木憲二	S54.11
348	26-5	狩野川の五十年(写真シリーズ) 西島附近の狩野川		鈴木憲二	S54.11
349	26-6	狩野川の五十年(写真シリーズ) 川瀬町より宮町方面を望む		鈴木憲二	S54.11
350	26-7	狩野川の五十年(写真シリーズ) 永代橋		鈴木憲二	S54.11
351	26-8	狩野川の五十年(写真シリーズ) 御成橋		鈴木憲二	S54.11
352	26-9	狩野川の五十年(写真シリーズ) 市場町河岸(1)		鈴木憲二	S54.11
353	26-10	狩野川の五十年(写真シリーズ) 市場町河岸(2)		鈴木憲二	S54.11
354	26-11	狩野川の五十年(写真シリーズ) 市場町河岸(3)		鈴木憲二	S54.11
355	26-12	狩野川の五十年(写真シリーズ) 御成橋より上流を望む		鈴木憲二	S54.11
356	26-13	狩野川の五十年(写真シリーズ) 三園橋(1)		鈴木憲二	S54.11
357	26-14	狩野川の五十年(写真シリーズ) 三園橋(2)		鈴木憲二	S54.11
358	26-15	狩野川の五十年(写真シリーズ) 三園橋附近より西方を眺む		鈴木憲二	S54.11
359	26-16	狩野川の五十年(写真シリーズ) 三園橋より東方を望む		鈴木憲二	S54.11
360	26-17	狩野川の五十年(写真シリーズ) 工事中の堤防		鈴木憲二	S54.11
361	26-18	狩野川の五十年(写真シリーズ) 黒瀬橋(1)		鈴木憲二	S54.11
362	26-19	狩野川の五十年(写真シリーズ) 黒瀬橋(2)		鈴木憲二	S54.11
363	26-20	狩野川の五十年(写真シリーズ) 香貫山登山道より川口方面		鈴木憲二	S54.11
364	26-21	狩野川の五十年(写真シリーズ) 香貫山より市内中心部		鈴木憲二	S54.11
365	26-22	狩野川の五十年(写真シリーズ) 香貫山より市役所方面		鈴木憲二	S54.11
366	26-23	狩野川の五十年(写真シリーズ) 香貫山より北方を望む		鈴木憲二	S54.11

367	26-24	狩野川の五十年(写真シリーズ) 香貫山より東北方面		鈴木憲二	S54.11
368	26-25	狩野川の五十年(写真シリーズ) 狩野川・大滝		鈴木憲二	S54.11
369	26-26	狩野川の五十年(写真シリーズ) 黄瀬川合流点		鈴木憲二	S54.11
370	26-27	狩野川の五十年(写真シリーズ) 柿田川・めがね橋		鈴木憲二	S54.11
371	26-28	狩野川の五十年(写真シリーズ) 黄瀬川		鈴木憲二	S54.11
372	26-29	近藤辰治さんを偲ぶ		山田梅軒(春男)	S54.11
373	26-30	沼津地方古文書所在目録	ジカタクモンゾ	漆畑彌一	S54.11
374	26-31	山部赤人と棄妾	ヤマベノアカヒト キシヨウ	秋山公道	S54.11
375	26-32	富士信仰につれて発達した御師の考察	オシ	村上忠見	S54.11
376	26-33	公家衆の通行と原宿伝馬(つゞき)	クゲシユ	渡辺八郎	S54.11
377	26-34	白隠墨蹟考(その4)	ホクセキ	山田梅軒(春男)	S54.11
378	26-35	宝暦元年未(ひつじ)之荒		関野新吾	S54.11
379	26-36	中空乃日記について(その2)		宮治勲	S54.11
380	26-37	史談会雑記 近郊史跡見学会		田中康弘	S54.11
381	27-1	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 三津海水浴場		鈴木憲二	S55.4
382	27-2	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 三津からの富士(1)		鈴木憲二	S55.4
383	27-3	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 三津からの富士(2)		鈴木憲二	S55.4
384	27-4	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 三津二俣海岸の富士		鈴木憲二	S55.4
385	27-5	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 伊豆西浦(久連)海岸		鈴木憲二	S55.4
386	27-6	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 西浦立保橋		鈴木憲二	S55.4
387	27-7	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 江の浦海岸		鈴木憲二	S55.4
388	27-8	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 沼津牛臥海岸		鈴木憲二	S55.4
389	27-9	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 沼津御用邸		鈴木憲二	S55.4
390	27-10	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 牛臥三島館の跡		鈴木憲二	S55.4
391	27-11	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 三島館庭園の一部		鈴木憲二	S55.4
392	27-12	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 沼津川口の富士		鈴木憲二	S55.4
393	27-13	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 千本公園 後砲台跡		鈴木憲二	S55.4
394	27-14	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 公園の牧水碑		鈴木憲二	S55.4
395	27-15	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 千本浜の松林		鈴木憲二	S55.4
396	27-16	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 公園の東京亭		鈴木憲二	S55.4
397	27-17	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 千本の網小屋		鈴木憲二	S55.4
398	27-18	沼津いまとむかし(写真シリーズ) 第二輯 千本の植松旅館		鈴木憲二	S55.4
399	27-19	梵鐘供出覚書	ホンシヨウ	漆畑彌一	S55.4
400	27-20	牧と釈迦堂	マキ	勝又巖	S55.4
401	27-21	幕府の原宿救助策		渡辺八郎	S55.4
402	27-22	巡礼・遍路の歴史—沼津周辺の霊場—	レイジヨウ	関野新吾	S55.4
403	27-23	続林昌之助遊撃隊異聞と薩邸を根城に群盗駿河路に入る一件	ユウゲキタイ	村上忠見	S55.4
404	27-24	中空乃日記について(その3)		宮治勲	S55.4
405	27-25	安藤正胤翁の頌徳碑	アンドウマサタネ ショウトクヒ	宮治勲	S55.4
406	27-26	張竹先生の富士山と桜	チヨウテイ	井草通之	S55.4
407	27-27	旅行部だより		市川良策	S55.4
408	27-28	近郊史跡見学の会		田中康弘	S55.4

409	28-1	浮世絵に描かれた沼津(第一輯) 一雄斎国輝画 末広五十三次 沼津		鈴木憲二	S55.11.30
410	28-2	浮世絵に描かれた沼津(第一輯) 広重画 東海道五十三次の内 沼津(有名な天狗の面)		鈴木憲二	S55.11.30
411	28-3	浮世絵に描かれた沼津(第一輯) 広重画 五十三次 沼津(鯉節干し)		鈴木憲二	S55.11.30
412	28-4	浮世絵に描かれた沼津(第一輯) 広重と豊国合作 双華五十三次 沼津		鈴木憲二	S55.11.30
413	28-5	浮世絵に描かれた沼津(第一輯) 東京日日新聞附録 芳幾画 沼津大火図		鈴木憲二	S55.11.30
414	28-6	浮世絵に描かれた沼津(第一輯) 豊国画 東海道五十三次の内 原 呉服屋重兵衛		鈴木憲二	S55.11.30
415	28-7	浮世絵に描かれた沼津(第一輯) 広重画 東海道五十三次の内 原(柏原の立場ふじの沼)		鈴木憲二	S55.11.30
416	28-8	浮世絵に描かれた沼津(第一輯) 広重画 東海道五十三次の内 原		鈴木憲二	S55.11.30
417	28-9	浮世絵に描かれた沼津(第一輯) 芳年筆 末広五十三次 原		鈴木憲二	S55.11.30
418	28-10	続梵鐘供出覚書	ボンショウ	漆畑彌一	S55.11.30
419	28-11	日露戦争出征時の沼津とその懐古		秋山公道	S55.11.30
420	28-12	高山寺文書と大岡牧	コウザンゾモンゾヨ	勝又巖	S55.11.30
421	28-13	原宿と助郷の紛争	スケゴウ	渡辺八郎	S55.11.30
422	28-14	白隠墨蹟考(その5)完 一和尚書下し「弁慶状」解説一	ホクセキ	山田梅軒(春男)	S55.11.30
423	28-15	講道館四天王富田常次郎の聞き書	コウドウカン	関野新吾	S55.11.30
424	28-16	陸前沼津村	リクゼン	関野新吾	S55.11.30
425	28-17	続沼津牛臥大山邸雑考	ウシブセ	池谷ゆう軒	S55.11.30
426	28-18	狩野川放水路開さくの攻防	カノガワ	山本三朗	S55.11.30
427	28-19	欧陽先生と杜康酒		井草通之	S55.11.30
428	28-20	近郊史跡見学の会		田中康弘	S55.11.30
429	28-21	国東の旅によせて	クニサキ	河辺茂代	S55.11.30
430	29-1	浮世絵に描かれた沼津 広重画 東海道五十三次(款書) 沼津		飯島利種	S56.5
431	29-2	浮世絵に描かれた沼津 広重画 東海道五十三次(款書) 原		飯島利種	S56.5
432	29-3	浮世絵に描かれた沼津 広重画 東海道五十三回会 沼津 旅籠屋見世		飯島利種	S56.5
433	29-4	浮世絵に描かれた沼津 広重画 東海道五十三回会 原 国附旅中		飯島利種	S56.5
434	29-5	浮世絵に描かれた沼津 広重画 東海道五十三次之内 沼津		飯島利種	S56.5
435	29-6	浮世絵に描かれた沼津 広重画 東海道五十三次之内 原		飯島利種	S56.5
436	29-7	浮世絵に描かれた沼津 国貞画 東海道五十三次之内 沼津図		飯島利種	S56.5
437	29-8	浮世絵に描かれた沼津 国貞画 東海道五十三次之内 原ノ図		飯島利種	S56.5
438	29-9	教導職推挙録		漆畑彌一	S56.5
439	29-10	頼朝公を身近に語る		山田梅軒(春男)	S56.5
440	29-11	釈迦堂の経筒と覚英		勝又巖	S56.5
441	29-12	原宿と助郷の紛争(つづき)	スケゴウ	渡辺八郎	S56.5
442	29-13	往来物と古状揃一白隠禅師と弁慶状について一	オウライモノ	池谷ゆう軒	S56.5
443	29-14	傑出の詩人 勝田香月記	カツタコウゲツ	村上忠見	S56.5
444	29-15	史談会だより・近郊史跡見学の会		田中康弘	S56.5
445	30-1	興国寺城の光厳寺と興国寺について	コウコクジ ヨウゴンジ	勝又巖	S56.12
446	30-2	大顛梵千和尚と俳人宝井其角の関係	ダイテンボンセン タライキカク	山本三朗	S56.12
447	30-3	弁慶状、池谷説を駁す		山田梅軒(春男)	S56.12
448	30-4	「沼津兵学校社」碑文解説		山田梅軒(春男)	S56.12
449	30-5	鉄道公害始末記		渡辺八郎	S56.12
450	30-6	ふるさとの伝承(3)		関野新吾	S56.12

451	30-7	地名「間門」雑考	マカト	市川良策	S56.12
452	30-8	初代会長成田敏郎さんのこと		井草通之	S56.12
453	30-9	会の若返り		池谷ゆう軒	S56.12
454	30-10	三十巻の中から		川口和子	S56.12
455	30-11	沼津史談30号によせる		笹原俊雄	S56.12
456	30-12	沼津史談31号発刊までの思い出		鈴木憲二	S56.12
457	30-13	30号記念感想		芹沢武男	S56.12
458	30-14	沼津史談30号に思う		辻真澄	S56.12
459	30-15	「沼津史談」30号発刊によせて		土屋美枝子	S56.12
460	30-16	祝30号躍進		村上忠見	S56.12
461	30-17	回顧20年		山田梅軒(春男)	S56.12
462	30-18	沼津史談30号によせて		山本三朗	S56.12
463	30-19	30号を迎えて思うこと		渡辺八郎	S56.12
464	30-20	史談会だより 近郊史跡見学の会		田中康弘	S56.12
465	31-1	グラフ 大正のよき時代		鈴木憲二	S57.6
466	31-2	原浦漁業について(つづき)		渡辺八郎	S57.6
467	31-3	伊豆国総高改(写本)について	ソウダカアラタメ	日吉宗雄	S57.6
468	31-4	五人組御仕置き帳	オシオキ	笹原俊雄	S57.6
469	31-5	白隠の隻手音声	セキシオンジョウ	山田梅軒(春男)	S57.6
470	31-6	長福寺歳中行事		関野新吾	S57.6
471	31-7	沼津の文化について		望月良夫	S57.6
472	31-8	始(初)めて「活動写真」を観る		市川良策	S57.6
473	31-9	「女義太夫・鶴沢文二師匠」聞き書一「愛鷹山」より一	オンナキダユウ	菅井英太郎	S57.6
474	31-10	史談会だより・近郊史跡見学の会		田中康弘	S57.6
475	32-1	温古(故)知新 国鉄富士川鉄橋		村上忠見	S57.12
476	32-2	河内・海瀬文書の中から	コウチ	関野新吾	S57.12
477	32-3	夜神楽の村	カグラ	川口和子	S57.12
478	32-4	東照宮御遺訓(上)		宮治勲	S57.12
479	32-5	岡部長景翁と東瀛荘(とうえいそう)	オカベナガカゲ	山本三朗	S57.12
480	32-6	沼津音楽協会始末記		鈴木憲二	S57.12
481	32-7	山田源次郎碑文解説と考察		山田梅軒(春男)	S57.12
482	32-8	涼月院と子安神社	リョウゲツイン コヤスジンジャ	芹沢武男	S57.12
483	32-9	原町に於ける明治初期の学校教育		渡辺八郎	S57.12
484	32-10	韮山県神社取調書の提出について		鈴木保	S57.12
485	32-11	「法句経」と「坐禅和讃」の放送について		菅井英太郎	S57.12
486	32-12	民俗史資料二題 伊豆日記(柳田国男) 伊豆内浦の忌中部屋(桜田勝徳)	キチュウベヤ	村上忠見	S57.12
487	32-13	白隠和尚の遺偈、大吽(だいん)一声	イゲ	町田瑞峰	S57.12
488	33-1	口絵 東海道関連写真			S57.6.30
489	33-2	弔辞(田中旭)		鈴木憲二	S57.6.30
490	33-3	田中旭氏と私		菅井英太郎	S57.6.30
491	33-4	急逝された田中旭さんを悼む		市川良策	S57.6.30
492	33-5	田中さんの思い出		芹沢武男	S57.6.30

493	33-6	青天の霹靂	ヘキレキ	山田梅軒(春男)	S57.6.30
494	33-7	田中さんの死を弔ふ、その思い出		宮治勲	S57.6.30
495	33-8	一枚の写真を前にして		関野新吾	S57.6.30
496	33-9	年賀状		川口和子	S57.6.30
497	33-10	田中旭先生の思い出		日吉宗雄	S57.6.30
498	33-11	憶、田中旭副会長		山本三朗	S57.6.30
499	33-12	田中旭氏の思い出		鈴木憲二	S57.6.30
500	33-13	田中副会長を悼む		村上忠見	S57.6.30
501	33-14	牧水資料展のスナップ	ホクスイ		S57.6.30
502	33-15	田中旭君の思い出		河邊清	S57.6.30
503	33-16	田中旭氏と沼津史談会二十年史		笹原俊雄	S57.6.30
504	33-17	故田中旭氏追悼所感文集		役員一同	S57.6.30
505	33-18	沼津大火記録をさかのぼる		奥田春二	S57.6.30
506	33-19	選挙制度の充実過程 沼津市域内選挙人名簿の今昔		日吉宗雄	S57.6.30
507	33-20	八重姫と頼朝に係る考証		片倉要一	S57.6.30
508	33-21	鉄道唱歌讃美		矢部寅吉	S57.6.30
509	33-22	下宿三年・明治末		山田梅軒(春男)	S57.6.30
510	33-23	コラム 新日本語考＝大野晋……タミル語＝			S57.6.30
511	33-24	コラム 浮島が原の詞華			S57.6.30
512	33-25	江原素六氏の事績を追う	エバラソロク	村上忠見	S57.6.30
513	33-26	愛鷹牧を支えた人々(1)	アシカマキ	渡辺八郎	S57.6.30
514	33-27	コラム 安良里の地名考を読み	アアリ		S57.6.30
515	33-28	白隠和尚信州伊那谷演錫と門下女性禅者の消息	イナダニ エンシャク	町田瑞峰	S57.6.30
516	33-29	東照宮御遺訓(中)		宮治勲	S57.6.30
517	33-30	コラム 静岡移民事件 静岡県警編(静岡県政党史沿革誌ヨリ)			S57.6.30
518	33-31	「伊豆の長八」について	チョウハチ	菅井英太郎	S57.6.30
519	34-1	口絵 家康夫人「お万の方」と沼津大平星谷家史料	オマンノカタ		S59.3.31
520	34-2	口絵 沼津市内浦の重寺漂着のカヌー	シゲテラ サンバソウ		S59.3.31
521	34-3	口絵 沼津御用邸謁見所			S59.3.31
522	34-4	口絵 菖蒲御前	アヤマゴゼン		S59.3.31
523	34-5	口絵 囚人堀			S59.3.31
524	34-6	沼津と牧水	ホクスイ	上田治史	S59.3.31
525	34-7	金子鷹之助と沼津		青木栄実	S59.3.31
526	34-8	三味線堀と囚人堀について	シャミセンホリ	片倉要一	S59.3.31
527	34-9	コラム(1) 重寺に漂着のカヌー			S59.3.31
528	34-10	三津白坂銀山について	ミト	山本三朗	S59.3.31
529	34-11	歴史と伝説のはざまに立って 棄妾郷と女人遠流の地	キショウゴウ	関野新吾	S59.3.31
530	34-12	釈迦堂の平助宗と中世郷土の歴史	タイラノスケムネ	勝又巖	S59.3.31
531	34-13	大正天皇の御ふるさと沼津		山田梅軒(春男)	S59.3.31
532	34-14	愛鷹馬牧を支えた人々(2)	アシカママキ	渡辺八郎	S59.3.31
533	34-15	白隠とその時代展を見て	ハクイン	日吉宗雄	S59.3.31
534	34-16	黎明期の駿東茶業 江原素六積信社ほかの業績(續)	セキシシヤ	村上忠見	S59.3.31

535	34-17	コラム(2) 国秀の絵馬 日蓮上人の一代記 一絵馬展を契機に図書館へ職員が発見一	クニヒデ		S59.3.31
536	34-18	コラム(3) 祭りとコミュニティ(温古(故)知新)		沼津市下香貫連	S59.3.31
537	34-19	わがふるさと沼津		井草通之	S59.3.31
538	34-20	コラム(4) お万の方直筆の手紙発見(身延で)	オマンカタ		S59.3.31
539	34-21	コラム(5) 「郷里名」入り木簡 宮城・多賀城跡 地方で初出土	ゴウリ		S59.3.31
540	35-1	大正天皇の御製(その1)	ギョセイ	山田梅軒(春男)	S59.11.20
541	35-2	沼津市大岡青木家所蔵 日露外交史古文書について		大山芳雄	S59.11.20
542	35-3	コラム 静岡・神明原遺跡で発掘	シンメイバラ		S59.11.20
543	35-4	ルーツ探訪 豆州江梨鈴木氏の末裔を訪ねて	エナシ	関為彌	S59.11.20
544	35-5	沼津市多比の『石敢當』史考	死 イシガントウ	村上忠見	S59.11.20
545	35-6	コラム 大山郁夫資料米国の大学に			S59.11.20
546	35-7	松方財政下の駿東地方 大岡村農民零落の一例証		芹沢武男	S59.11.20
547	35-8	コラム 箱根用水下郷地区 死活問題ほうふつ			S59.11.20
548	35-9	伊豆大場の久八事蹟 江戸湾御台場工事と貧民救済基金	ダイバ キュウハチ	片倉要一	S59.11.20
549	35-10	コラム 銅剣びっしり350本			S59.11.20
550	35-11	白隠とその時代展を見て(続)	ハウイン	日吉宗雄	S59.11.20
551	35-12	コラム 沼津市明治史料館・江原素六記念館			S59.11.20
552	35-13	愛鷹馬牧を支えた人々(3) (完)	アシタカマキ	渡辺八郎	S59.11.20
553	35-14	久連国民高等学校の顛末(つづく)	クスラ	関野新吾	S59.11.20
554	35-15	=短歌十首=熊野古道をゆく		川口和子	S59.11.20
555	35-16	偉大なる田中清一翁の偉業(1)	タナカセイイチ	瀬上清高	S59.11.20
556	35-17	葛山城祉・館の松(半田松)	カツラヤマジヨウ	池田幸枝	S59.11.20
557	35-18	コラム 沼津案内 復刻によせて			S59.11.20
558	35-19	沼津のエビ・カニ雑話		飯塚栄一	S59.11.20
559	36-1	たった四文字の話だけれど		井草通之	S60.4.30
560	36-2	大正天皇御製(その2)	ギョセイ	山田梅軒(春男)	S60.4.30
561	36-3	ルーツ探訪(その2) 江梨鈴木繁朝の嫡子一大学繁脩の父は繁光か一	エナシ	関為彌	S60.4.30
562	36-4	沼津テト馬車の歴史		片倉要一	S60.4.30
563	36-5	久連国民高等学校の顛末(その2)	クスラ	関野新吾	S60.4.30
564	36-6	コラム 伊奈半左衛門の「贈位欽仰録」を復刻	イナハンザエモン ゾウイキンギョウロク		S60.4.30
565	36-7	代官五味小左衛門の仁政	ゴミショウザエモン	日吉宗雄	S60.4.30
566	36-8	明治30年代沼津地方俳諧の一考察 一特に梅庵梅素について	ハイカイ	望月宏充	S60.4.30
567	36-9	近世土肥金山略史	トイ	水口為和	S60.4.30
568	36-10	コラム 曹洞宗大本山 永平寺貫主丹羽倪(猯)下を寿ぐ	ニワゲイカ		S60.4.30
569	36-11	葛山城祉・館の松(半田松)(2) 一山田梅軒翁の短歌・寸評一	カツラヤマジヨウ	池田幸枝	S60.4.30
570	36-12	随想 酒塚		望月良夫	S60.4.30
571	36-13	偉大なる田中清一翁の偉業(2)	タナカセイイチ	瀬上清高	S60.4.30
572	36-14	日本歴史最後の仇討ちは 沼津在方仮寓の彰義隊の内紛が発端		村上忠見	S60.4.30
573	37-1	表紙 沼津新聞 明治14年8月3日 第7号			S60.4.30
574	37-2	口絵 明治の教育者 間宮喜十郎			S60.4.30
575	37-3	「知られざるソ連」を拝聴して		井草通之	S61.3.31
576	37-4	ルーツ探訪(その3) 鈴木左京亮は誰か 一江梨鈴木繁朝は嫡子か一		関為彌	S61.3.31

577	37-5	沼津のシルク遺跡		片倉要一	S61.3.31
578	37-6	コラム 沼津新聞 明治14年9月13日付記事抜粋			S61.3.31
579	37-7	豆駿横道順(巡)禮道 =沼津を中心として=	ズスンヨコドウ	柴田寿彦	S61.3.31
580	37-8	内浦の名称を探る	ウチウラ	日吉宗雄	S61.3.31
581	37-9	コラム 「天皇」称50年抜粋			S61.3.31
582	37-10	沼津の自由民権運動		樋口雄彦	S61.3.31
583	37-11	コラム 三枚橋横宿に瞽女(ごぜ)の消息	ヨコジユク		S61.3.31
584	37-12	東照宮御遺訓(下)		宮治勲	S61.3.31
585	37-13	コラム 沼津新聞 明治14年9月28日付記事抜粋			S61.3.31
586	37-14	杉田玄端の両湯日記	ゲンタン	益田實	S61.3.31
587	37-15	三津 歴史の散歩道	ミト	山本三朗	S61.3.31
588	37-16	原宿落穂集		渡辺八郎	S61.3.31
589	37-17	36号 「近世土肥金山略史」正誤表		水口為和	S61.3.31
590	37-18	コラム 沖縄戦蹟巡礼回想録		鈴木憲二	S61.3.31
591	38-1	表紙 郷愁の瓜島	ウリジマ	村上忠見	S62.3.31
592	38-2	小春日の「白隠遺跡」探訪	ハクイン	山田梅軒(春男)	S62.3.31
593	38-3	「首級冢碑」について	シュキウチョウヒ	宮治勲	S62.3.31
594	38-4	平作地蔵由来と実像	ヘイサク	櫻井信一	S62.3.31
595	38-5	三枚橋城と城主	サンマイバンジョウ	柴田寿彦	S62.3.31
596	38-6	成瀬善四郎正典とその墓		樋口雄彦	S62.3.31
597	38-7	沼津水野藩と高島流砲術について		鈴木保	S62.3.31
598	38-8	中世訴答文書の解説		小川うめ	S62.3.31
599	38-9	画人暁斎と沼津関係考察(上)	キョウサイ	村上忠見	S62.3.31
600	38-10	牧水の通った町 ー随筆「浦賀港」を中心にー	ホクスイ	菅井英太郎	S62.3.31
601	38-11	根方街道の石塔(1)	ネガタイトウ	高田篤三	S62.3.31
602	38-12	慶応元年御廻状留		益田實	S62.3.31
603	38-13	沢田部落強制移転の顛末(上)		片倉要一	S62.3.31
604	38-14	東海道原宿の災害誌(1)		渡辺八郎	S62.3.31
605	38-15	コラム 霊山寺律僧成真大徳の骨蔵器と判明	リョウゼンジ		S62.3.31
606	38-16	檀家制度について	ダンカ	加納光雄	S62.3.31
607	38-17	箱根用水(1)		池田幸枝	S62.3.31
608	38-18	磐田方面視察の記		日吉宗雄	S62.3.31
609	39-1	表紙 蛇松の図	ジャマツ	村上忠見	S63.3.31
610	39-2	明治30年代沼津地方俳諧の一考察(2) ー並びに梅素・香城・明水についてー		望月宏充	S63.3.31
611	39-3	沢田部落強制移転の顛末(下)		片倉要一	S63.3.31
612	39-4	東海道原宿の災害誌(2)		渡辺八郎	S63.3.31
613	39-5	慶応元年御廻状留(2)		益田實	S63.3.31
614	39-6	大峯山 医源寺の開基について	イケンジ	加納光雄	S63.3.31
615	39-7	画人暁斎と沼津関係考察(下)	キョウサイ	村上忠見	S63.3.31
616	39-8	箱根用水(2)		池田幸枝	S63.3.31
617	39-9	原・昌原寺とその過去帳 =於万の方要請の寺=	ショウケンジ オマンノカタ	柴田寿彦	S63.3.31
618	39-10	沼津市出口町和田元(はじめ)氏邸宅裏門の両柱に刻されたる碑文について		宮治勲	S63.3.31

619	39-11	根方街道の石塔(2)	ネガタイトウ	高田篤三	S63.3.31
620	39-12	「セツカイジョ」と呼ぶ伝承名について		櫻井信一	S63.3.31
621	40-1	表紙 昭和初期頃の静浦獅子浜布島附近の風景	シズウラ シシハマ ヌジマ		H1.3.31
622	40-2	沼津駅弁の始まり		片倉要一	H1.3.31
623	40-3	市場町界限今昔		塩谷幸光	H1.3.31
624	40-4	江戸初期・東海道の旅行記		柴田寿彦	H1.3.31
625	40-5	川藻と農民		村社恭児	H1.3.31
626	40-6	偉大なる田中清一翁の偉業(3)	タナカセイイチ	瀬上清高	H1.3.31
627	40-7	静岡県東部の文人墨客一覧	ブンジンホツカク	日吉宗雄	H1.3.31
628	40-8	江梨城主鈴木氏の末裔故地に帰る	エナシ	関為彌	H1.3.31
629	40-9	「建国記念の日」に思う		加納光雄	H1.3.31
630	40-10	新聞錦絵に描かれた我入道の記事について	ガニュードウ	望月宏充	H1.3.31
631	40-11	大正7年ごろ消えたお齒黒夫人の回想	オハクロ	村上忠見	H1.3.31
632	40-12	明治期の沼津短歌会(1) 一榎不言舎と歌誌「馬酔木」-	マキフケンジャ	城直樹	H1.3.31
633	40-13	原壺ヶ浦の海難者供養塔-白隠の里に復元された-	ハクイン	渡辺八郎	H1.3.31
634	40-14	根方街道の石塔(3)	ネガタイトウ	高田篤三	H1.3.31
635	40-15	北條時政の後妻「牧の方」について	マキノカタ	櫻井信一	H1.3.31
636	40-16	沼津水野藩領越後国蒲原郡村々のこと	カンバラケン	鈴木保	H1.3.31
637	40-17	慶応4(明治元)年御廻状留(1)	ゴカイジョウドメ	益田實	H1.3.31
638	41-1	中山道の宿場と本陣の今昔(上)	ナカセンドウ	片倉要一	H2.3.31
639	41-2	史料に現われた中世の三枚橋	サンマイバシ	櫻井信一	H2.3.31
640	41-3	平家に殉じた齊藤一族		柴田寿彦	H2.3.31
641	41-4	慶応4(明治元)年御廻状留(2)完	ゴカイジョウドメ	益田實	H2.3.31
642	41-5	一遍上人と沼津	イツペンシヨウニン	加納光雄	H2.3.31
643	41-6	『愛鷹山野馬御尋ニ付書付帳』を読む		高田篤三	H2.3.31
644	41-7	石門心学の沼津・御殿場への普及状況-沼津は定着せず、御殿場は定着する-	セキモンシンガク	村上忠見	H2.3.31
645	41-8	明治期の沼津短歌会(2) 一榎不言舎と歌誌「馬酔木」-	マキフケンジャ	城直樹	H2.3.31
646	41-9	蓮光寺境内に存在せる俳人不輩の石碑について(上)	レンコウジ フヒ	宮治勲	H2.3.31
647	41-10	沼津国技館の群像 -昭和初期来沼の人々-	コクキカン	菅井英太郎	H2.3.31
648	41-11	千貫樋について	センガントイ	岩本昇	H2.3.31
649	41-12	故 山田梅軒先生をしのぶ	ヤマダバイケン	村上忠見	H2.3.31
650	41-13	山田梅軒先生を悼む	ヤマダバイケン	関野新吾	H2.3.31
651	41-14	故 井草元会長の偲い草		村上忠見	H2.3.31
652	42-1	表紙 静浦風景 獅子浜の富士		池田幸枝	H3.6.18
653	42-2	桂谷紀聞を読んで	カツラダニキブン	日吉宗雄	H3.6.18
654	42-3	中山道の宿場と本陣の今昔(下)	ナカセンドウ	片倉要一	H3.6.18
655	42-4	明治期の沼津短歌会(3) 一榎不言舎と歌誌「馬酔木」-	マキフケンジャ	城直樹	H3.6.18
656	42-5	「豆州内浦長浜村家別人別長」について	ニンベツチョウ	加納光雄	H3.6.18
657	42-6	吾妻鏡の欠落(源頼朝公の薨去)について	アスマカガミ	柴田寿彦	H3.6.18
658	42-7	大名飛脚 お七里衆の行状について	オヒリ	高田篤三	H3.6.18
659	42-8	伊豆水軍と武田水軍		関為彌	H3.6.18
660	42-9	武田家智将山本勘助は実在したか否か	ヤマモトカンスケ	益田實	H3.6.18

661	42-10	寺宝 西郷南洲の書について	サイゴウナンシュウ	宮治勲	H3.6.18
662	43-1	表紙 昭和初期頃の御成橋付近の風景		加納光雄	H4.5.10
663	43-2	偉大なる田中清一翁の偉業(4)	タナカセイイチ	瀬上清高	H4.5.10
664	43-3	鷲頭山、江月寺と秋山氏	ワシスサン コウゲツジ	加納光雄	H4.5.10
665	43-4	明治期の沼津短歌会(4) 一楨不言舎と歌誌「アララギ」	マキフケンジャ	城直樹	H4.5.10
666	43-5	木曾路十一宿の今昔(前編)		片倉要一	H4.5.10
667	43-6	清水町玉川高田文書について		日吉宗雄	H4.5.10
668	43-7	肥前国山海大変一件		宮治勲	H4.5.10
669	43-8	原町大塚東部瓦講		一杉保	H4.5.10
670	43-9	浦奉行浦役について	ウラブギョウ	関為彌	H4.5.10
671	43-10	城山神社と池田稻荷合祀の由来	シロヤマジンジャ	池田幸枝	H4.5.10
672	43-11	続根方街道の石塔	ネガタカイトウ	高田篤三	H4.5.10
673	43-12	金岡の偉大な先達鈴木亮平翁の足跡		益田實	H4.5.10
674	43-13	急逝された柴田寿彦さんへの追悼のことば		益田實	H4.5.10
675	43-14	村上先生を悼む		片倉要一	H4.5.10
676	43-15	糟地蔵	カスジゾウ	益田實	H4.5.10
677	43-16	高札(下)		片倉要一	H4.5.10
678	43-17	根方道探訪余話		高田篤三	H4.5.10
679	43-18	大正・昭和初期の沼津の映画界		本間宗助	H4.5.10
680	43-19	原地方の方言		望月経雄	H4.5.10
681	43-20	奉行婦人の鑑「一太郎やあい」		諸星三郎	H4.5.10
682	43-21	清源庵と三界万霊塔	サンガイバンレイトウ	一杉保	H4.5.10
683	44-1	表紙 御臨幸を仰ぐ 沼津繭市場		櫻井信一	H5.5.25
684	44-2	長浜城跡探訪記		加納光雄	H5.5.25
685	44-3	明治期の沼津短歌会(5) 一楨不言舎と歌誌「アララギ」	マキフケンジャ	城直樹	H5.5.25
686	44-4	「三枚の石」にまつわる伝説		櫻井信一	H5.5.25
687	44-5	土肥鈴木文書 一伊豆水軍のルーツ探訪	トイ	関為彌	H5.5.25
688	44-6	木曾路十一宿の今昔(後編)		片倉要一	H5.5.25
689	44-7	続根方街道の石塔(2)	ネガタカイトウ	高田篤三	H5.5.25
690	44-8	「田中清一翁・生誕百年祭」について	タナカセイイチ	瀬上清高	H5.5.25
691	44-9	城山神社と池田稻荷合祀の由来	シロヤマジンジャ	池田幸枝	H5.5.25
692	44-10	玉砥石の疑問	タマトシ	櫻井信一	H5.5.25
693	44-11	大正10年頃の沼津市街と身辺雑記		本間宗助	H5.5.25
694	44-12	魚にまつわる話		足立實	H5.5.25
695	44-13	手鞠うた		片倉要一	H5.5.25
696	44-14	首塚と一字一石塔	イチジイッセキトウ	高田篤三	H5.5.25
697	45-1	表紙 版画 沼津黄昏の図		櫻井信一	H6.5.15
698	45-2	金岡の偉大な先達鈴木亮平翁の足跡(後編)		益田實	H6.5.15
699	45-3	日蓮上人と沼津	ニチレンショウニン	加納光雄	H6.5.15
700	45-4	明治期の沼津短歌会(6) 一楨不言舎と歌誌「アララギ」	マキフケンジャ	城直樹	H6.5.15
701	45-5	根方街道一現県道吉原一三島線(県道22号線)改良事情一	ネガタカイトウ	高田篤三	H6.5.15
702	45-6	土肥金山奉行の墓一ルーツ探訪一	トイ	関為彌	H6.5.15

703	45-7	謹んで宮治勲先生の逝去を悼む		益田實	H6.5.15
704	45-8	故宮治先生を偲ぶ		片倉要一	H6.5.15
705	45-9	史跡見学会―静岡・神奈川県境―		高田篤三	H6.5.15
706	45-10	沼津町懐古		本間宗助	H6.5.15
707	45-11	隠れたる民俗資料の収集家		片倉要一	H6.5.15
708	46-1	表紙 沼津御用邸「謁見所」		加納光雄	H7.3.31
709	46-2	鈴川憲二様のご霊前に捧ぐ ―御葬儀における弔辞―		益田實	H7.3.31
710	46-3	謹んで故片倉要一様を追悼します		益田實	H7.3.31
711	46-4	大中寺開山、夢窓国師について	ムソウコクシ	加納光雄	H7.3.31
712	46-5	石川 森家文書から「東澤田村年寄忠蔵さん」		高田篤三	H7.3.31
713	46-6	近世の高札制度と沼津宿の高札	コウサツ	櫻井信一	H7.3.31
714	46-7	明治期の沼津短歌会(7) ―楨不言舎と歌誌「アラハギ」―	マキフゲンジャ	城直樹	H7.3.31
715	46-8	「四方清」のこと	ヨモセイ	四方一み	H7.3.31
716	46-9	大中寺梅園と沼津御用邸		下山光悦	H7.3.31
717	46-10	明治時代に沼津十八景を詠む		矢田凡久・杉山光	H7.3.31
718	46-11	『四方の回文』と『俳句による道知るべ』(西浦立保)	ニシウラチホ	野村康夫	H7.3.31
719	46-12	大東亜戦争末期―地獄への発車―		池田幸枝	H7.3.31
720	46-13	地獄の底をさまよう		小宮山忠夫	H7.3.31
721	46-14	荒野に思いを馳せて		野崎権二	H7.3.31
722	46-15	私の太平洋戦争		荻竜之助	H7.3.31
723	46-16	同期生の死を思う		益田實	H7.3.31
724	46-17	玉碎サイパン鎮魂の旅		川口貫一	H7.3.31
725	46-18	海没の記(昭和19. 10. 2)		長田武三郎	H7.3.31
726	46-19	或る軍人の日記抜粋		一杉保	H7.3.31
727	46-20	太平洋戦争		高田繁子	H7.3.31
728	46-21	終戦前後の静岡	シズウラ	足立實	H7.3.31
729	46-22	戦災の思い出		須原大三	H7.3.31
730	46-23	私の戦後50年		岡定司	H7.3.31
731	46-24	戦災終戦から50年		関為彌	H7.3.31
732	47-1	表紙 豆州内浦真景縮図(三十八景)		足立實	H8.4.30
733	47-2	謹んで故内村一雄様の逝去に対し衷心より追悼の意を表します		益田實	H8.4.30
734	47-3	謹んで故鈴木達雄様の逝去に対し衷心より追悼の意を表します		益田實	H8.4.30
735	47-4	故鈴木達雄先生の御遺徳を偲ぶ ―梅軒先生との友情―		池田幸枝	H8.4.30
736	47-5	お万の方事蹟考補遺	オマンカタ	益田實	H8.4.30
737	47-6	江原素六翁と笹見窪	エハラソロク ササミクホ	高田篤三	H8.4.30
738	47-7	明治期の沼津短歌会(8) ―楨不言舎と歌誌「アラハギ」―		城直樹	H8.4.30
739	47-8	大中寺庭園の歴史		下山光悦	H8.4.30
740	47-9	偉大なる行者唯念上人	ユイネン	日吉宗雄	H8.4.30
741	47-10	葛山城主備中守 ―歌人葛山氏広等―	カツラヤマジヨウ	池田幸枝	H8.4.30
742	47-11	続「沼津十八景」を詠む詩歌八首		矢田凡久・杉山光	H8.4.30
743	47-12	鹿児島暴徒出征中控置 丁丑 明治十歳二月十六日		足立實	H8.4.30
744	47-13	学祖と中興の祖		関為彌	H8.4.30

745	47-14	咳気神社と子の神社について	ガイジンジャ ネゾンジャ	杉山重義	H8.4.30
746	47-15	ある戦死者遺家族の軌跡		青木栄実	H8.4.30
747	47-16	史跡見学会(平成4,5年度) - 歴史民俗探訪見学会報告-		中道秀毅	H8.4.30
748	48-1	沼津「菊間」藩大浜騒動	キクマ	益田實	H9.3.31
749	48-2	沼津短歌会と犬蓼短歌会について	イヌダテ	城直樹	H9.3.31
750	48-3	周磨筆『東海道名所之内田子浦蛇松』について	チカマロ	望月宏充	H9.3.31
751	48-4	池田緯太郎の墓碑について-大蔵省からスカウトされた男-	イタロウ	高田篤三	H9.3.31
752	48-5	伊豆の国静岡県編入の顛末		関為彌	H9.3.31
753	48-6	江浦港と塩久津港(塩取引の争い)	エノウラコウ シオクヅゴウ	足立實	H9.3.31
754	48-7	随筆二題より 天野康景 小田原攻め	アマノヤスカケ	佐野利夫	H9.3.31
755	48-8	続「沼津十八景」を詠む詩歌七首		矢田凡久・杉山光	H9.3.31
756	48-9	沼津海軍工廠と電波探信機(レーダー)	カイケンコウショウ	勝又巖	H9.3.31
757	48-10	三津浄因寺 奈古谷国清寺の謎を追う	ミトジョウインジ ナゴヤコクセイジ	石井種生	H9.3.31
758	48-11	真覚玄璋和尚の生活をみつめて	マサメケンショウ	下山光悦	H9.3.31
759	48-12	道祖神を探る(前)	ドウゾジン	櫻井信一	H9.3.31
760	48-13	「根方地域」の旧家探訪(1)	ネガタ	杉山重義	H9.3.31
761	48-14	「地名」に思うこと		四方一み	H9.3.31
762	48-15	葛山備中守氏元の周辺 - 沼津市多比の龍雲寺-	カツラヤマヒツチュウノカミ	池田幸枝	H9.3.31
763	48-16	史跡見学会(平成6,7年度) - 歴史民俗史跡めぐりの報告-		中道秀毅	H9.3.31
764	48-17	表紙 豆州山水真景縮図		足立實	H9.3.31
765	49-1	松長陣屋門と大久保家その(1)	マツナガ ジンヤモン	益田實	H10.3.31
766	49-2	沼津短歌会と榎不言舎 - 新資料「古能美知」と新聞「日本」をめぐって-	マキフゲンジャ コノミチ	城直樹	H10.3.31
767	49-3	静浦遊泳協会の創立	シズウラ	足立實	H10.3.31
768	49-4	内浦海水浴場の旗	ウチウラ	日吉宗雄	H10.3.31
769	49-5	裾野市千福の横山家と鈴木家の記念碑	センブク	高田篤三	H10.3.31
770	49-6	駿陽駿東郡下御厨岩波村 一名所風穴と住人-	ミクリヤ	池田幸枝	H10.3.31
771	49-7	江原素六先生のエピソード	エハラソロク	鈴木正二	H10.3.31
772	49-8	古代からのメッセージ 平城京出土・木簡に残る「荒堅魚」とは		石井種生	H10.3.31
773	49-9	「設楽原決戦史」の歴史紀行	シタラハラ	村社恭児	H10.3.31
774	49-10	沼津領君沢郡八反畑村渡邊家紛争の人々(1)	キミサワケン	渡邊たかし	H10.3.31
775	49-11	沼津上水道計画私案 政友会沼津少壮団		一杉保	H10.3.31
776	49-12	浮世絵師歌川廣昌は画人磯部菊溪か	イソベキツケイ	望月宏充	H10.3.31
777	49-13	史跡見学会(平成8年度) - 歴史民俗史跡めぐりの報告-		中道秀毅	H10.3.31
778	50-1	表紙 沼津千本公園の一部		池田幸枝	H11.3.31
779	50-2	萩野山中陣屋	オギノヤマナカ	益田實	H11.3.31
780	50-3	榎不言舎について - 墓碑銘からのメッセージ-	マキフゲンジャ	城直樹	H11.3.31
781	50-4	郷社 楊原神社及び吉田神社の由来	ゴウジャ ヤナキハラジンジャ	池田幸枝	H11.3.31
782	50-5	シンボル塔と江原素六先生	エハラソロク	鈴木正二	H11.3.31
783	50-6	知られざる沼津の文化探求		日吉宗雄	H11.3.31
784	50-7	<コラム> ウニの話		足立實	H11.3.31
785	50-8	馬牧雑記一野馬除土手と廃牧まで-	ママキ	高田篤三	H11.3.31
786	50-9	「伊賀越道中双六 沼津の段」について	イガゴエドウチュウスゴロク	望月宏充	H11.3.31

787	50-10	僅か十年足らずで人心掌握した唯念という人物	ユイネン	石井種生	H11.3.31
788	50-11	駿豆地区における鉄道網の変遷 明治―大正―昭和	スンスチク	村社恭児	H11.3.31
789	50-12	沼津領君沢郡八反畑村渡邊家紛争の人々(2)	キミサワケン	渡邊たかし	H11.3.31
790	50-13	<コラム> 史談会入会のエピソード		池田幸枝	H11.3.31
791	50-14	江浦に伝わる海難文書(その1)	エノウラ	足立實	H11.3.31
792	50-15	史跡見学会(平成10年度)―歴史民俗史跡めぐり―		中道秀毅	H11.3.31
793	51-1	表紙 赤野観音堂	アケノカンノドウ	関口昌男	H12.3.31
794	51-2	沼津千本首塚の論考 ―鈴木尚東大名譽教授―	クビヅカ	益田實	H12.3.31
795	51-3	歌人と謝野晶子と伊豆讃歌 ―三津と一碧湖―	ミト イッペキコ	池田幸枝	H12.3.31
796	51-4	<コラム> 梶雄か北条早雲	キョウユウ ホウジョウソウウン	益田實	H12.3.31
797	51-5	榎不言舎と俳句	マキフゲンジャ	城直樹	H12.3.31
798	51-6	江浦に伝わる海難文書(その2)	エノウラ	足立實	H12.3.31
799	51-7	続・大峯山 医源寺の開基について	イケンジ	石井種生	H12.3.31
800	51-8	原宿俳人 環亭去留と松谷庵麗々	カンテイキョリユウ ショウコクアンレイレイ	望月宏充	H12.3.31
801	51-9	大器晩成の武将・早雲	ソウウン	村社恭児	H12.3.31
802	51-10	笹見窪・混同農社について ―笹見窪・徳川家幕臣移住の地―	ササミホ	高田篤三	H12.3.31
803	51-11	渡瀬寅次郎とグルントビ		佐野利夫	H12.3.31
804	51-12	<コラム> 重寺の三番叟師匠の墓を発見	シゲテラ サンバソウ	石井種生	H12.3.31
805	51-13	史跡見学会(平成11年度)―歴史民俗史跡めぐり―		勝俣郁夫	H12.3.31
806	51-14	コラム 山頭火と沼津の梅軒	サントウカ バイケン	関口昌男	H12.3.31
807	52-1	表紙 沼津御用邸		関口昌男	H13.1.10
808	52-2	原駅誕生物語		望月宏充	H13.1.10
809	52-3	沼津と歩んだ沼商の100年史		村社恭児	H13.1.10
810	52-4	伝説 亀鶴観音	カメツルカンノン	益田實	H13.1.10
811	52-5	牧師で民俗学の先駆者 山中共古について	ヤマナカキョウコ	櫻井信一	H13.1.10
812	52-6	井上靖文学と沼津		中道秀毅	H13.1.10
813	52-7	『差出申一札之事』を読んで	サンダシモウスイッサツノコト	高田篤三	H13.1.10
814	52-8	コラム 遍路道しるべ		高田篤三	H13.1.10
815	52-9	吉田桃樹『槃游餘録』を追って	ヨシダトウジュ ハンユウヨロウ	石井種生	H13.1.10
816	52-10	狩野川に架かる橋梁とその歴史	カノガワ	池田幸枝	H13.1.10
817	52-11	保養地としての沼津の別荘		足立實	H13.1.10
818	52-12	榎不言舎と漢詩・漢文	マキフゲンジャ	関口昌男	H13.1.10
819	52-13	史跡見学会(平成12年度)		勝俣郁夫	H13.1.10
820	53-1	表紙 沼津兵学校記念碑書下文		関口昌男	H14.2.11
821	53-2	西周における思想形成と沼津(1) ―沼津赴任―	ニシアマネ	四方一み	H14.2.11
822	53-3	初代歌川広重画「東海道五十三對 原」の図柄について		望月宏充	H14.2.11
823	53-4	飛行機で魚をとる		足立實	H14.2.11
824	53-5	電報・電話の生い立ち(1)		高田篤三	H14.2.11
825	53-6	旧海軍工作学校社 ―海軍工作学校・発足と終末―		池田幸枝	H14.2.11
826	53-7	富士川の渡船		村社恭児	H14.2.11
827	53-8	<文献・資料紹介> 道祖神を探る(後)	ドウソジン	櫻井信一	H14.2.11
828	53-9	<文献紹介> 幕末オランダ留学 ―赤松則良の手記―		益田實	H14.2.11

829	53-10	<コラム> 榎不言舎の独り歩き	マキフゲンジャ	関口昌男	H14.2.11
830	53-11	史跡見学会		勝俣郁夫	H14.2.11
831	53-12	史談会だより「あの日、あの時」－関東大震災余話－		佐野利夫	H14.2.11
832	53-13	「伊達道中双六・沼津の段と平作地蔵」		櫻井信一	H14.2.11
833	53-14	沼津と榎不言	マキフゲン	関口昌男	H14.2.11
834	53-15	梶原堂		佐野利夫	H14.2.11
835	53-16	増田平四郎さんのこと		長濱昇	H14.2.11
836	53-17	咳の姥神		大島建彦	H14.2.11
837	54-1	表紙 沼津港口公園にある勝田香月記念碑文(下段)	カツタコウゲツ	関口昌男	H15.1.31
838	54-2	植田三十郎と植田新田・神護寺について	ウエダ	望月宏充	H15.1.31
839	54-3	沼津の詩人 勝田香月	カツタコウゲツ	池田幸枝	H15.1.31
840	54-4	駿東病院長 佐々木次郎三郎とその時代(1)	ササキジロサブロウ	上杉有	H15.1.31
841	54-5	松長陣屋の場所及び施設の検証		増山温一	H15.1.31
842	54-6	伊東の文人と武人		村社恭児	H15.1.31
843	54-7	電報・電話の生い立ち(2)		高田篤三	H15.1.31
844	54-8	蓄養殖のはじまり		足立實	H15.1.31
845	54-9	榎不言舎の資料紹介2題 －「榎日記」と俳誌「裾野」における作品群－	マキフゲンジャ	関口昌男	H15.1.31
846	54-10	(随筆) 沼津の歴史2題 噫々愛鷹丸・朝鮮通信使と沼津		佐野利夫	H15.1.31
847	54-11	<コラム> 連歌師 宗祇の生涯	ソウキ	益田實	H15.1.31
848	54-12	旅行部報告		勝俣郁夫	H15.1.31
849	55-1	表紙 牧堰門池の排水塔と「門池碑」について	マキセギカドイケ	関口昌男	H16.1.31
850	55-2	池田副会長を悼む		四方一み	H16.1.31
851	55-3	故池田幸枝女史を悼む －沼津史談会での活躍－		関口昌男	H16.1.31
852	55-4	名主 久住家と七家衆の争い	クスマキ	足立實	H16.1.31
853	55-5	江原素六の生涯	エハラソロウ	益田實	H16.1.31
854	55-6	電報・電話の生い立ち(3)		高田篤三	H16.1.31
855	55-7	門池の歴史	カドイケ	野秋義和	H16.1.31
856	55-8	わが国の財産はく奪の歴史		村社恭児	H16.1.31
857	55-9	松長の五人組帳	マツナガ	増山温一	H16.1.31
858	55-10	愛鷹神社考(1)	アンタカ	木村昭和	H16.1.31
859	55-11	原宿力士「浪渡り清兵衛」と「鶴ヶ濱友吉」		望月宏充	H16.1.31
860	55-12	(特別寄稿)中瀬禅東久保遺跡	ナカセゼントウクホ	原和雄	H16.1.31
861	55-13	旅行部通信		勝俣郁夫	H16.1.31
862	56-1	表紙 佐々木次郎三郎先生碑			H17.2.1
863	56-2	沼津地域における中等程度諸学校の社会的基盤に関する一試考		四方一み	H17.2.1
864	56-3	原 植松本家と帯笑園	タイショウエン	望月宏充	H17.2.1
865	56-4	小島助次郎日記		足立實	H17.2.1
866	56-5	駿東病院長佐々木次郎三郎とその時代(2)	ササキジロサブロウ	上杉有	H17.2.1
867	56-6	電報・電話の生い立ち(4)		高田篤三	H17.2.1
868	56-7	沼津出身の軍人井口省吾大将の活躍		村社恭児	H17.2.1
869	56-8	沼津と伊藤左千夫		関口昌男	H17.2.1
870	56-9	井上靖らの決議文 沼中校長宛		佐野利夫	H17.2.1

871	56-10	「川の話」から「河岸に立ちて」まで ー井上靖文学の一考察ー		中道秀毅	H17.2.1
872	56-11	片浜学校林の沿革とその変遷	カタハマ	増山温一	H17.2.1
873	56-12	旅行部報告 ー山梨方面へー		野秋義和	H17.2.1
874	57-1	表紙 プチャーチン肖像画		関口昌男	H18.3.1
875	57-2	(特別寄稿)戸田村におけるヘダ号の建造		菅沼基臣	H18.3.1
876	57-3	原・浮島の歴史、文化等に関わりある人名ファイル		望月宏充	H18.3.1
877	57-4	駿東病院長佐々木次郎三郎とその時代(3)	ササキジロサブロウ	上杉有	H18.3.1
878	57-5	風間岳南の五つの句碑	カザマカクナン	関口昌男	H18.3.1
879	57-6	(資料)沼津の漁業と五十集商人	イサバシヨウニン	足立實	H18.3.1
880	57-7	幕末期における情報伝達の廻状(1)	カイジヨウ	増山温一	H18.3.1
881	57-8	(特集)戦争を語る座談会記録		沼津史談会	H18.3.1
882	57-9	「川の話」から「河岸に立ちて」まで(下) ー井上靖文学の一考察ー		中道秀毅	H18.3.1
883	57-10	紹介『「中学校教則大綱」の基礎的研究』			H18.3.1
884	57-11	君死にたまふこと勿れ		村社恭児	H18.3.1
885	57-12	紹介『旧幕臣の明治維新 ー沼津兵学校とその群像ー』			H18.3.1
886	57-13	黒船雑記		高田篤三	H18.3.1
887	57-14	戸田巡りの印象		長濱昇	H18.3.1
888	57-15	平成17年度 研修旅行の報告 旅行部報告 ー戸田井田方面の旅ー		野秋義和	H18.3.1
889	58-1	表紙 井上靖写真		関口昌男	H19.3.1
890	58-2	(資料)幕末期における情報伝達の諸廻状(2) ー浦廻状(浦触)ー	カイジヨウ	増山温一	H19.3.1
891	58-3	乍恐書付ヲ以御訴詔奏申上候(前編)		足立實	H19.3.1
892	58-4	夢窓国師の顕彰碑建立のいきさつ	ムソウコクシ	下山光悦	H19.3.1
893	58-5	資料にみる私立駿東看護婦学校		上杉有	H19.3.1
894	58-6	徳川幕臣の沼津移住		高田篤三	H19.3.1
895	58-7	家紋について	カモン	八十濱俊一	H19.3.1
896	58-8	河岸に立ちて ー晩年の井上靖文学の一考察ー		中道秀毅	H19.3.1
897	58-9	沼津中学戦没同窓生282柱に捧ぐ		佐野利夫	H19.3.1
898	58-10	沼津の今村紫紅 ーある翁の回想からー	イマムラシコウ	中川和郎	H19.3.1
899	58-11	研修旅行記		野秋義和	H19.3.1
900	59-1	表紙 第28回全国中学校野球大会入場行進		関口昌男	H20.3.31
901	59-2	(資料)幕末期における情報伝達の諸廻状(3) ー規制・取締り等の廻状ー	カイジヨウ	増山温一	H20.3.31
902	59-3	乍恐書付ヲ以御訴詔奏申上候(後編)		足立實	H20.3.31
903	59-4	静浦海浜院長 安藤正胤の研究 <郷土のヘルスケア先覚者>	アンドウマサタネ	上杉有	H20.3.31
904	59-5	沼津中学野球部々史抄録		中川和郎	H20.3.31
905	59-6	河岸に立ちて ー晩年の井上靖文学の一考察ー		中道秀毅	H20.3.31
906	59-7	米山梅吉 ー社会貢献の先駆者ー		故 村社恭児	H20.3.31
907	59-8	戸田松城家住宅の「引き手」写真集	マツシロク	菅沼基臣	H20.3.31
908	59-9	歴史随筆3篇 蛇松緑道 一枚のスケッチから 大日本平和協会		佐野利夫	H20.3.31
909	59-10	研修旅行記(平成19年度旅行部研修報告)		野秋義和	H20.3.31
910	60-1	表紙 三島館		関口昌男	H21.3.31
911	60-2	世古直道と三島館	サントウカン	武田藤男	H21.3.31
912	60-3	「沼津史談」の創刊号を読んで		関口昌男	H21.3.31

913	60-4	車返と三枚橋	クルマガエシ	宮下義雄	H21.3.31
914	60-5	連歌師宗祇・宗長と駿河国	ソウキ	芹澤充寛	H21.3.31
915	60-6	原 一本松と元堀(水落堀)跡と浮島沼について		望月宏充	H21.3.31
916	60-7	沼津市と静浦村の合併及び水産教育		足立實	H21.3.31
917	60-8	松長の溜井(溜池)		増山温一	H21.3.31
918	60-9	幻の画家 速水御舟と沼津	ハヤミキヨシユウ	中川和郎	H21.3.31
919	60-10	国指定重要文化財 松城住宅の擬洋風建築写真集	マツシロ	菅沼基臣	H21.3.31
920	60-11	歴史随筆3題 受難の石碑 加納治五郎 航空灯台		佐野利夫	H21.3.31
921	60-12	研修旅行記(平成20年度旅行部研修報告)		佐野利夫	H21.3.31
922	61-1	表紙 三島毅漢詩		関口昌男	H22.3.31
923	61-2	沼津十六景と三島中洲	シミマチュウシュウ	武田藤男	H22.3.31
924	61-3	戸田湊の景観と廻船問屋の成長 ～戸田湊から見た19世紀における駿河湾の海運事情～(1)		田辺千尋	H22.3.31
925	61-4	まぼろしの造船記念碑		菅沼基臣	H22.3.31
926	61-5	明治初期近代経済学と沼津		四方一み	H22.3.31
927	61-6	越通船図あれこれ 沼津史談会叢書 駿河国 松長村「諸向廻状留」より	オットセン	秋山義雄	H22.3.31
928	61-7	カゾウ・映画・テレビ＝ある女優の生涯		中川和郎	H22.3.31
929	61-8	歴史随筆3題 地震追弔の碑 馬門道人 戸田村造艦碑		佐野利夫	H22.3.31
930	61-9	研修旅行記(平成21年度旅行部研修報告)		佐野利夫	H22.3.31
931	62-1	表紙 御浜海水冷温浴場保養館開業広告 明治史料館蔵	ミハマ	菅沼基臣	H23.3.31
932	62-2	沼津史談会50年の歩み		増山温一	H23.3.31
933	62-3	「川上五郎翁」のこと		中川和郎	H23.3.31
934	62-4	上田寅吉史伝		菅沼基臣	H23.3.31
935	62-5	歴史随筆3題 義民山田源次郎 お首さん お台場		佐野利夫	H23.3.31
936	62-6	研修旅行記(平成22年度旅行部研修報告)		佐野利夫	H23.3.31
937	63-1	故 益田實先生への弔辞		関口昌男	H24.3.31
938	63-2	ロシア軍艦ディアナ号の遭難と原		望月宏充	H24.3.31
939	63-3	昭和の映画人と雑誌『映画評論』のこと		中川和郎	H24.3.31
940	63-4	千本浜「首級冢碑」碑文についての一考察	シュキユウチヨウヒ	武田藤男	H24.3.31
941	63-5	榎不言舎の出自と伊藤左千夫 一東都の左千夫が6回の来沼に触れて一	マキフケンジャ	関口昌男	H24.3.31
942	63-6	緒明(オアキ)菊三郎翁伝		菅沼基臣	H24.3.31
943	63-7	歴史随筆3題 人間魚雷回天 豆相人車鉄道 岳陽少年団		佐野利夫	H24.3.31
944	63-8	旧戸田村の名誉村民 矢田清一郎略伝		菅沼基臣	H24.3.31
945	63-9	研修旅行記		佐野利夫	H24.3.31
946	64-1	表紙 鳥宮暁秀揮毫(明石海人歌集『白描』第一部序文より)		岡野久代	H25.3.31
947	64-2	大梅居兎島狐山と狐山堂三代(1) 三島・沼津における門葉の人びと一	ダイパイコ コジマコサン	渡邊たかし	H25.3.31
948	64-3	故 川口和子さんを偲んで		関口昌男	H25.3.31
949	64-4	沼津地方で歌われ踊られた祭り歌レコード 一私のコレクションの中から一		望月宏充	H25.3.31
950	64-5	明石海人 一文学の原風景	アカシカイジン	岡野久代	H25.3.31
951	64-6	渡邊忠右衛門翁伝		菅沼基臣	H25.3.31
952	64-7	沼津に生きた明治の写真師・鈴木忠視		松村由紀	H25.3.31
953	64-8	戸田地区の社寺	ヘダ	菅沼基臣	H25.3.31
954	64-9	故 辻眞澄さんを偲んで		関口昌男	H25.3.31

955	64-10	歴史随筆3題(幻の万貫棒・大日本平和協会・日光東照宮陽明門)	マンガンホウ	佐野利夫	H25.3.31
956	64-11	研修旅行記(平成24年度旅行部研修報告)		佐野利夫	H25.3.31
957	65-1	伊賀越道中雙六 沼津之段(旧金毘羅大芝居(金丸座)の看板絵)	イガゴエドウチュウスゴロク	望月宏充	H26.3.31
958	65-2	浮世絵に描かれた「伊賀越道中双六 沼津之段」	イガゴエドウチュウスゴロク	望月宏充	H26.3.31
959	65-3	古文書に見る戸田村「田代牧」について	タシロマキ	武田藤男	H26.3.31
960	65-4	沼津港橋橋脚と初代御成橋工事についての新発見	オナリバシ	仙石規	H26.3.31
961	65-5	佐山芳太郎小伝		菅沼基臣	H26.3.31
962	65-6	大梅居兎島狐山と狐山堂三代(2) 三島・沼津における門葉の人びと一	ダイバイコ コジマコザン	渡邊たかし	H26.3.31
963	65-7	戸田地区の社寺(2)	ヘダ	菅沼基臣	H26.3.31
964	65-8	(記録) シベリア抑留記		北原武	H26.3.31
965	65-9	歴史随筆三題 麻雀博物館 京都を復活させた田辺朔郎 山の辺の道		佐野利夫	H26.3.31
966	65-10	研修旅行記(平成25年度旅行部研修報告)		千野慎一郎	H26.3.31